

## 「具体⇄抽象」PJ 報告⑩プロジェクトおよび全体総括

企業経営漫談士 岡野実空

総括の後半は、NPO 発足から「具体⇄抽象」プロジェクトに至る、マネジメント共育ネットワークの活動集約です。それをひと言でいえば、各社の「マネジメント=コミュニケーション」の劣化修復に追われた 10 年。一連の報告の最終回は、その原因でもあった社会の3つの「～レス」(ボーダー、モデル、コントロール)の視点から、これまでの活動内容を見直し、今後の方向性を展望します。

### その1:「ボーダーレス」

私たち MCN の発足は、2011 年東日本大震災後の 11 月。我が国の多くの組織はその後、復旧や復興を名目に、その手前 20 年間に起きた社会の大変動の本質を直視せず、抜本的な対策を取らないまま、いまだに対症療法を続けています。

その最たるものは、「ボーダーレス」。冷戦の終結や種々の技術革新によって、社会に存在したさまざま壁が崩れ、経済のグローバル化が一気に加速。我が国においても、ケイレツなど固定した関係のみに頼ってられない時代が到来しました。そこでのコミュニケーションには、従来の「方言」に加え、「共通語」が必要になったのです。

多くの組織はそれに小手先で対応しましたが、大半は失敗。双方の教育が中途半端になったばかりか、その「通訳」を積極的に育てず、社内外のコミュニケーションの劣化を招いたことは、前回のコラムで指摘したとおりです。

### その2:「モデル・レス」

次なる課題は、「モデル・レス」。明治維新以来、我が国は欧米を模倣し続け、とりあえず物質的な「豊かさ」を手に入れました。しかし右肩上がりの経済の行き詰りとともに、それを前提にした社会の「矛盾」が噴き出し、私たちは長らくその対応に苦しんでいます。さらに深刻なのは、長期的かつ総合的な社会のビジョンが定まらないことです。

そんなとき思い出すのは、戦後の日本商工会議所を牽引した、故永野重雄氏の「日本経済石垣論」。大中小の石が相互に補完し合い、400 年風雪に耐えてきた皇居の石垣を日本経済に見立てた慧眼です。

いま私たちが目指すべきは、そのアジアへの転用。すなわち、某国の「一帯一路」に侵食されている各国と共に展開する「アジア経済石垣論」です。そしてその一石となる「ビジネスモデル」の構築こそ、皆さんミドルの役割に他なりません。

### その3:「コントロール・レス」

さて 3 つ目の課題は、その「マネジメント」に関して。欧米にモデルがあった時代、その切り札は「カイゼン」。またそれは、「コントロール」(制御)という概念に基づくものでした。

しかし明治維新以降、画一化を進めた我が国から出て、各国と「一体」となった石垣を築くには、アジア各地の文化や風土に目配りせざるをえません。その「所変われば品変わる」中で、「コントロール」は「マネジメント」の一部に過ぎないのです。

また私たちも「アジア」の一員。その石垣で受け持つのは、主に「知識」産業の部分です。その「マネジメント」において、制御や統制はタブー。「コントロール・レス」こそ、あるべき姿です。そしてその「自律」の延長線上にある、全体を考えつつ、各地で決めるべきことは現地の判断に任せる姿勢こそ、「アジア経済石垣論」実現への王道なのです。

最後に、私たちがこれまで一貫して訴求してきた、Flat、Forward、Fun、Fusion の「4F」による「知の創造」。今回その心柱が「具体⇄抽象」能力であることが確認でき、以上の総括を踏まえて、今後の活動の方向性が明確に定まりました。さらに皆さまと一体となり、その「具体化」に邁進します。

皆さまにはこれまでの御礼を申し上げるとともに、倍旧のご支援をお願いし、MCN10 年および今プロジェクト報告の締めとさせていただきます。

2021年12月6日 実空

#### お知らせ

NPO 法人マネジメント共育ネットワークは、おかげさまでこのたび創立 10 年を迎えることができました。また当コラムも、今回で計 250 号を重ねました。これからしばらくは旧号の加筆修正に務め、2022 年明けより続編を再開いたします。